

【部会の活動—近現代史ゼミ】

フィールドワーク 「近代産業ゆかりの地を訪ねる」

2013年9月29日（日）

当日は晴天、24名（含講師・スタッフ）が参加した。今回も昨年と同様、歴教協（群馬県歴史教育者協議会）との共催での実施。当日の解説は歴教協から宮崎俊弥講師、フォーラムから内藤真治講師。両講師の丁寧な説明で充実したフィールドワークとなった。

伊勢崎市境島村（旧境町島村）は利根川をはさんだ小さな地区。かつて氾濫した利根川の名残で川の南側（埼玉県側）に県境が入り込んでいる。バスは島小学校に着いた。

①伊勢崎市立境島小学校（旧境町立島小学校）

島小はかつて斎藤喜博校長のもと、その教育で有名だった。校章は桑の葉、蛾、繭の3つを組み合わせたもの。校舎前に赤レンガが展示され、洪水とたたかってきた島村の様子が書かれている。ここに勤めた経験をもつ大塚さんが解説してくれた。

②田島弥平旧宅（国指定史跡）

「富岡製糸場と絹産業遺産群」として世界遺産候補。田島弥平旧宅は、優秀な蚕種（蚕の卵）を生産する養蚕技法「清涼育」を体系的に完成させた田島弥平が、文久3（1863）年に建てた主屋兼蚕室で県内最大級の養蚕家屋である。蚕室の特徴は、屋根裏にある「やぐら」。「やぐら」や2階蚕室の四方の窓を開閉することによって、蚕室内の環境を調整していた。この構造は、田島弥平が著した『養蚕新論』・『続養蚕新論』によって各地に広まり、近代養蚕農家の原型になった。

また、田島弥平は養蚕業で最初の株式会社「島村勸業会社」を設立、明治12（1879）年からはヨーロッパへ蚕種の直輸出を行った。

このことから島村にはキリスト教などの新しい文化を取り入れる条件や気風も生まれた。島村にはまた早くに自由民権思想が流入し、明治15（1882）年には島村自由党が結成されている。



田島弥平旧宅をあとにネギ畑の道を行く

③日本基督教団島村教会

（国登録有形文化財）

島村のキリスト教は蚕種業者がキリスト教に接触したことから始まる。島村教会の成立は明治20（1887）年、今ある島村教会の教会堂は明治30（1897）年に建設されたもの。最初はメソジストの教会だったが、昭和に入って、プロテスタント系教会合同により日本基督教団に組み入れられた。私たちが訪れたときは日曜の礼拝が行われていたが、礼拝堂の内部を見せていただいた。

さて、バスは島村を離れて県境を越えて、渋沢栄一ゆかりの深谷へと向かう。

④渋沢栄一生地・旧渋沢邸「中の家」

（埼玉県指定旧跡「渋沢栄一生地」）

現在の建物は再建されたもので、栄一の生家ではないが、毎年、栄一はこの家に帰郷した。渋沢一族は分家して数々の家を起こしたが、「中の家（なかんち）」はそのひとつ。中の家は代々農業を営んでいたが「苗字帯刀」

を許され、栄一の父の代には養蚕や藍玉づくりと販売のほかには雑貨屋、質屋も兼ねて大変裕福だった。

⑤ 渋沢栄一記念館

渋沢栄一は天保 11（1840）年現在の深谷市血洗島に生まれた。10歳年長の従兄、尾高惇忠から漢籍、特に論語を学ぶとともに、尊王攘夷思想の影響を受けた。23歳の頃、高崎城を乗っ取り、幕府を倒すという計画を立てたが、いとこの長七郎の反対もありこの計画は中止となった。翌年、京都に出奔、一橋家の用人のはからいで一橋家に仕官、慶喜が將軍となることで、栄一は幕臣となった。27歳の時（1867）、徳川昭武（將軍の名代）に従ってパリ万博へ、帰国までの約1年半ヨーロッパの諸事情を学んだ。このヨーロッパ視察が栄一の人生を大きく変えた。帰国後、明治政府に仕えたが、33歳（1873）で大蔵省を辞め、官界から実業界に転じ、第一国立銀行をはじめ約500社の設立に関与した。また、教育や社会福祉活動にも熱心で、国際交流にも尽力した。

1931年、91歳で永眠。



誠之堂前で参加者記念撮影

⑥ 誠之堂（国指定重要文化財）・清風亭（埼玉県指定有形文化財）

誠之堂は、大正 5（1916）年、渋沢栄一の喜寿（77歳）を記念して、第一銀行行員達の出資により建設された。英国風の外観、中国、

朝鮮、日本など東洋的なデザインも取り入れている。使われているレンガは深谷製である。

清風亭は、大正 15（1926）年、当時の第一銀行頭取であった佐々木勇之助の古希を記念して、誠之堂と並べて建てられた。

二つの建物は、大正時代を代表する建築物で、ともに東京都世田谷区瀬田にあったが、平成 10（1998）年から2年間の解体・復元工事を経て深谷の現在地に完成した。

⑦ 旧日本煉瓦製造（株）跡

（国重要文化財）

明治政府は日比谷周辺の建物群を西洋風の煉瓦造りとするため多量の煉瓦を必要とし、渋沢栄一に機械式煉瓦工場設立を要請。渋沢は煉瓦造りの条件を備えていた実家近くの上敷免村を推薦、明治 20（1887）年以降、日本煉瓦製造会社の設計、建築に着手した。最盛期には6基の窯が稼動していた工場も、平成 18（2006）年、約120年の歴史に幕を下ろした。現在は旧事務所やホフマン輪窯 6号窯などが残っている。ここで製造された煉瓦は今でも法務省（旧司法省）、東京駅、日本銀行などで見ることができる。毎週金曜日に煉瓦史料館となっている旧事務所が公開されているが、当日は残念ながら中に入ることはできず、門前からの見学となった。

【文責 設楽春樹】

参加者の感想より

伊勢崎に住んでいるので渋沢栄一関連の史跡、建物は車で1時間もかからない所です。こんな近くにこんなに素晴らしい方の足跡があったとは、びっくりでした。彼が今、生きていたら今の日本をどう思うのかなー。原発問題等どんな提言をされるのかなー、等と思わされました。

年に一回のフィールドワーク。学生時代の旅行気分でもとても楽しみです。担任と副担任と学級代表（これ瀧口さん）に連れられて…という気分。でも私、信州の時も下仁田の時もお昼がとても楽しくおいしかったです。今回も楽しみにしていたのですが…。（定方佐知子さん）